NIE実践報告

1．タイトル：**ぼくたちすぎのこ新聞屋さん**

2．学校名

豊橋市立杉山小学校

3．実践者名（代表者名）

木村　知江美

4．学年

特別支援学級　３年１名　２年２名

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

学級活動・生活単元学習　　３名

6．単元（本時の学習課題）名

すぎのこの学級新聞を作ろう

7．目標(狙い)

自分の考えを発表したり、友だちの意見の良い所を発見したりすることで、みんなで協力して一つの意見にまとめる。

8．評価の視点

友だちの意見の良い所を見つけ、発言することができる。（A男・B男）
自分の意見が通らなくても、投げ出さずに活動に参加することができる。（C男）

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

ぼくたちすぎのこ新聞屋さん（学級活動６時間・生活単元学習７時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

（1）新聞の用語を覚えよう（学級活動１時間）
用語を覚え、実際に一般紙や他学年の作った新聞で確認する。
（2）新聞の名前（題字）を決めよう（学級活動１時間）
３名が意見を出し合い、話し合っていくなかで一つの意見にまとめる。
（3）どんな記事をのせるのか決めよう（学級活動３時間）
他のクラスの子に特別支援学級のことを知ってもらえるよう、今がんばっていることや、楽しかったこと中心に考えるようにする。
（4）担当者を決めよう（学級活動１時間）
希望が同じだった場合の対応の仕方を学習してから話し合いを行う。
（5）新聞を作ろう（生活単元学習７時間）
（6）新聞を学校のみんなに配ろう（学級活動１時間）

11．児童・生徒の反応、感想・意見

自分達の新聞を作りたいという意欲から、自分の意見をしっかりと伝えることができた。自分の意見が通らないこともあったが、我慢できることが増えてきた。新聞が出来上がると、飛び上がったり、体を震わせて喜んでいた。新聞を読んだ他のクラスの子から、声をかけられるようになった。

12．成果と課題

３名の児童が、新聞を作っていろいろな人に見てもらいたいという目的をもって取り組むことができた。話し合いの際は、友達の意見の良いところを見つけることができたり、意見を上手にまとめたりする姿も見られ、少しずつではあるが成長が見られた。新聞が出来上がったときは、ものすごい満足感を得ることができ、次の新聞作りへの意欲につながった。この活動をこれからも続けていき、コミュニケーション能力の育成と、特別支援学級の情報を発信していきたい。